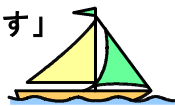




小値賀物語



令和3年1月14日発行

小値賀町立小値賀中学校

校長 池田英二

①求めて学ぶ生徒 ②心を高める生徒 ③たくましい生徒

早いもので3学期が始まり1週間が経とうとしています。先日は、小値賀では珍しい雪が積もり、雪ダルマの姿もあちこちに見られ、心が和みました。連日、本格的な寒さが続いておりますが、皆様方はいかがお過ごしでしょうか？どうぞご自愛ください。

また昨日は、福岡県でも新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言が出されました。3学期も小値賀中職員一同で、十分なコロナ対策を行いながら生徒一人一人のために、本校の教育活動に邁進してまいります。保護者の皆様、地域の皆様、今後とも学校へのご理解とご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

今回の小値賀物語では、3学期の始業式での学級生徒代表の言葉の紹介と全校書初めの様子をお知らせいたします。



3学期始業式の言葉（1月8日金曜日）

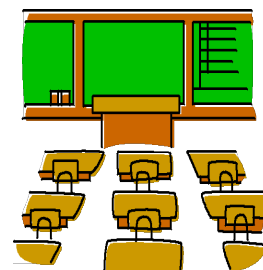
○1年生 横尾 華子

私の3学期の目標は、2つあります。1つ目は、学力の向上です。私は、日頃から宿題やテストに向けての復習などに、直前になってから慌てて取り組み、レインボーノートの内容が雑になってしまったり、学習内容を十分に理解できていなかったりすることが多くありました。3学期からは、取りかかりを早くして理解につながる学習にしたいです。2つ目は、心のこもったあいさつをすることです。あいさつについては、小学校の頃から繰り返し言われていて、自分ではできていると思っていました。でも2学期の終業式で校長先生からあいさつについてのお話があった時、「私のあいさつには心がこもっていたかなあ」と思いました。あいさつをしなければならないという気持ちだけで、相手の気持ちまで考えていなかったなと思います。3学期は、自分がされて嬉しいあいさつをしたいと思います。3学期は、1年生最後の学期なので、この2つの目標をしっかりと達成できる学期にしたいです。



○2年生 笹山 心春

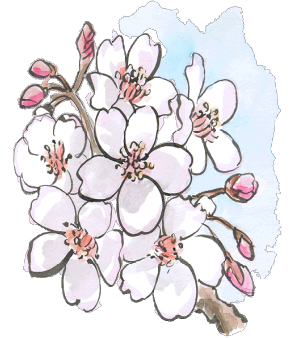
私は、3学期頑張りたいことが2つあります。1つ目は、発表です。私は、発表をすることが苦手です。だから3学期からは、1つの授業に1回以上手を挙げることを意識し、実践できるよう頑張りたいと思います。2つ目は忘れ物を減らすことです。私は、忘れ物をよくしてしまいます。3学期は、これを直すために生活ノートに次の日の時間割と持っていく物をきちんと記入し、前の日からしっかりと準備をしていきます。最後に、勉強です。私は、ワークを終わらせるのに精一杯で、テスト勉強があまりできていません。これからはワークに計画的に取り組み、テスト勉強の時間を増やしたいです。次に学級全体についてです。学級の目標は、あいさつです。学校内ではできているけど地域でのあいさつが良くないと2学期に言われたので、学校であいさつの質をさらに高めて、地域の人たちにもしっかりとあいさつのできる学年になりたいです。私たち2年生は、常にあいさつを意識して過ごしてきました。また、2学期は、学習発表会や野外活動を通して協力することの大切さや協力することで大きな力を発揮できることを学んだので3学期もクラスみんなで協力をしていきたいです。2年生の3学期は、3年生になる準備の学期になるので、生活面と勉強面を今まで以上に良くしていきたいです。



○3年生 濱田 愛羅

いよいよ3学期が始まりました。私たち3年生にとっては最後の学期であり、中学校3年間の総まとめがやってきたことにもなります。この1年間、受験生としての意識をもって生活してきましたが、いよいよ受験が迫ってきました。私たちは、早い人で1週間後に、1月中には5人の人が受験に臨みます。そして、2か月後には、14人全員が受験(検)を終えることとなります。冬休み中に、精一杯勉強してきたので、これから取り組む各教科の受験(検)対策も頑張っていきます。みんなで第一志望校に合格できるように頑張ります。

そして3学期には、大切な行事がたくさんあります。卒業式では、本番までの練習で歌や動きをしっかりと、保護者に安心してもらえるように頑張ります。卒業まで残りわずかな日数しかありません。3年生の中には、小値賀以外の高校を第一志望校にしている人もいます。14名一緒に過ごすことができるのも卒業式までということになります。長い人で14年間、短い人で半年間と、共に過ごした時間に違いはありますが、1日1日を大切に過ごしていき、14人の絆を深めたいです。そして、学級目標の「ドリームキャッチャー」を14人全員が実現させたいです。



全校書初め(1月13日水曜日)

「新年にあたり、抱負となる言葉を自らの書にあらわすことで、決意を新たにすること」「自覚を深めながら、毛筆を用いて、字形を整えながら、文字の大きさ、配列・配置に気をつけて書くことに慣れ親しむこと」を目的にして、全校書初めを実施しました。生徒



は、冬休み中に「新年の抱負」を表す言葉を考え、今回の書初めに臨みました。例年、全校生徒が一堂に会し、多目的室で実施していましたが、本年度は、新型コロナウイルス感染症の予防対策として、三密を少しでも避けられるように、多目的室と会議室の2か所で実施しました。生徒が「新年の抱負」を一生懸命書いている姿を見て、私も自分の気持ちを新たにすることができました。

【ちょっといい話】「つらくなったら空を見てね」

小説家で詩人の寮美千子(りょう みちこ)さんの話。彼女は奈良少年刑務所の明治の煉瓦建築が見たかった。それで、一般公開日に出かけた。その日、奈良少年刑務所から「受刑者に童話や詩を使った教室を開きたいので講師になってほしい」との依頼があった。

依頼を受けたある日、詩の教室で少年が『くも』という題で詩を書いた。「空が青いから白をえらんだのです」と一行の詩。その詩を「素晴らしい詩です。読んでください」と寮さんが話すと、薬物中毒の後遺症があるその少年がたどたどしく読んだ。

読み終わると、刑務所の受講者全員が拍手。生まれて初めてほめられた少年は、嬉しさのあまり「話したいことがあります。僕のお母さんは今年で七回忌です。亡くなる前に『つらくなったら空を見てね。私はそこにいるから』と話しました」と言う。

感心して聞いていると、別の受講生が「僕はお母さんを知りません。この詩から、僕もお母さんに会えるような気がします」と泣き出した。やがて、全員が慰めるといふ感動する場面に出会ったという。

